

民法改正 18歳から大人!

2022年4月1日から、
成年年齢は18歳になります。

若者に注意してほしい事例

⚠️「サブスク」の請求トラブルにご注意!

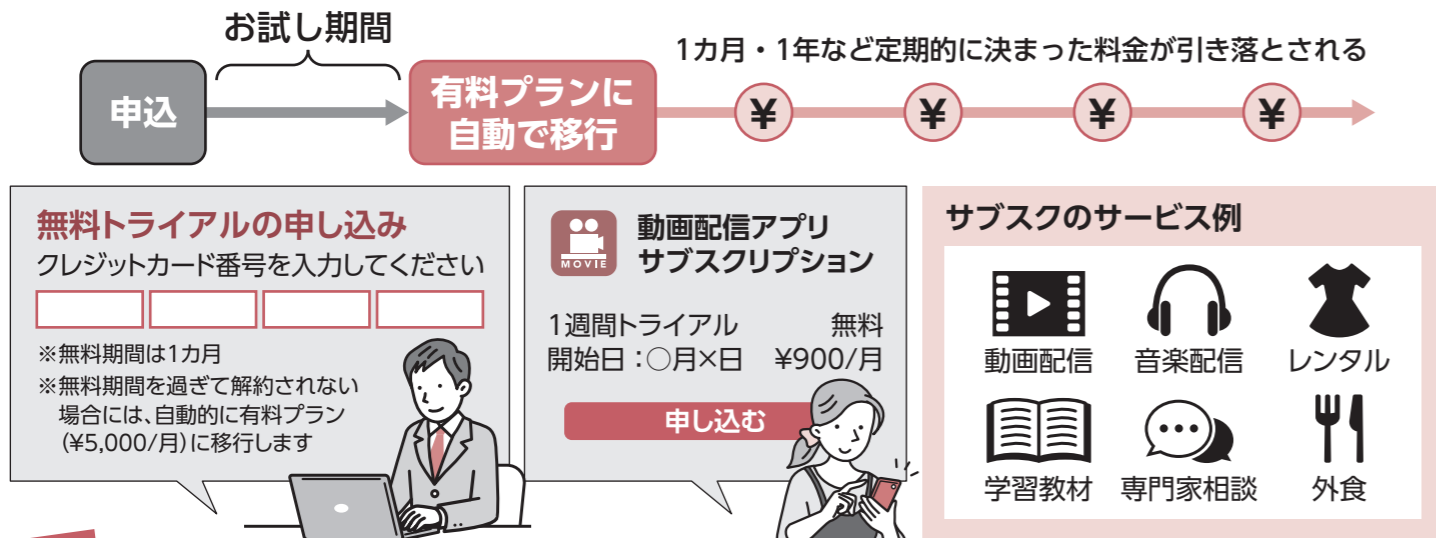
1か月単位で定額で利用できるダイエットトレーニングアプリを見つけた。「最初の1か月は無料」とのことだったので、試したところ、あまり効果がないと感じた。そのため、退会したいと思いアプリを削除した。

これで代金はかからない、と思っていたところ、実際には退会できていないまま無料期間が終了し、毎月課金されていることに数か月後気づいた。

アプリの削除だけでは、解約ができておらず、契約が続いていた事例です。

? サブスクリプションとは (または、「サブスク」という)

動画配信、音楽配信、レンタルなどの定額制サービスのことで、定められた料金を定期的に支払うことです。一定期間、商品やサービスを利用できます。



(独立行政法人国民生活センター: http://www.kokusen.go.jp/news/data/n-20211007_1.html をもとに加筆修正)

契約のポイント!

- ✓ 「無料体験」「無償トライアル」の広告・表示をきっかけにサブスクを申し込む際には、契約条件をよく確認しましょう。
- ✓ 申し込む前に、契約の相手方の事業者名、サービス内容、解約方法を確認しましょう。
- ✓ 解約しない限り契約は自動で更新されます。支払いが続くことに注意しましょう。

人生100年時代へ向けて ~今から備える「老後のお金」~



資産形成に役立つ制度 iDeCo イデコ

iDeCo(イデコ)とは

iDeCo(イデコ)は、個人型確定拠出年金制度の愛称のことですが、日本に誕生し今年10月で20年を迎えました。国が法律により創設した老後資金準備の方法として関心が高まり、既に参加者が今年9月で217万人を超えています。その最大の特徴は、あらかじめ預貯金、保険、投資信託などの金融資産のうちから運用する金融商品を選び、自分が負担した掛け金を上手に運用することで将来受け取れる額を殖やしていくことにあります。

一方で、同じ年金制度でも、働く社員のための掛け金を企業が負担する企業型確定拠出年金がありますが、加入者範囲の拡大などの条件緩和と共にiDeCo(個人型)の加入者増加が今後更に見込まれます。

iDeCoの特徴

iDeCoは、特に税制面で次のように優遇されているのが特徴です。加入者が掛け金の額を予め決めます(確定拠出の本来の意味)が、所得税及び住民税の計算上、その全額が所得控除の対象となり節税できます。運用期間中、金融商品の運用益には一切課税されず、再投資できます。

原則60歳以降に受け取ること(老齢給付金)ができ、受取方法を年金か一時金かで選択できますが、いずれの方法でも大幅な控除額を差引いた残りが課税対象となります。給付にはこの他、障害給付金、死亡一時金、脱退一時金があります。人生100年時代と言われる中、より豊かな老後生活を過ごすための賢い手段として検討してみたいかがでしょうか。

(長野県金融広報委員会)